

## 事業報告書

1 支援団体名	中島壮年部	
2 事業名称	巖木ダム周辺「水辺の交流とオアシスの郷づくり」事業	
3 実施日時	令和5年4月～令和6年2月	
4 実施場所	唐津市巖木町中島墨田地内及び広瀬地域	
5 事業目的、内容及びその効果	(事業実施状況・内容) 本年度は、周年を通じて巖木ダム湖周辺及びダム管理道の除草、河川清掃・ホテル再生事業に加え、オアシスの郷(里山・里川)の環境整備事業を実施。5月からダム公園や管理道等の除草事業を皮切りに、6月河川清掃、7月には生物多様性保全事業(外来種の川藻等の除去)を実施。更に7月に巖木川1日リバースクールの名のもとに第5回川リンピックフェスタ及び生態系環境調査等を実施。12月には、町内の小学生を対象に森・川学習会を県農林事務所とのコラボにより開催。更に河川敷内の葦等の伐採。1月は里山(オアシスの森)整備の一環として、ツツジ等の植樹活動を実施。1月末に河川敷内の葦、雑木等の焼却活動を実施いたしました。	
	(事業実施効果) 巖木ダム周辺及び管理道、河川敷等の環境整備等を通じて、ダムや水資源は流域住民の共有財産であるとの意識が根付いています。更に、生物多様性保全事業の一環として外来種等の除去やホテル再生活動等に加え、森・川の学習会を通して水資源の重要性や公益的機能の理解を深め、河川に対する恩恵と愛護思想が益々向上しています。本年は、新型コロナの終息に伴い、子供達の交流と情操教育に資する川リンピックや河川生態系調査等従来のイベントを復活、有意義な夏場の活動が出来ました。また、県とのコラボ開催による森・川学習会や植樹活動により、生活との密接な関連性や森と川、海の関係性「一衣帯水」の原理などを学び水資源の有用性と環境保全の必要性の理解を深めました。本事業は、個性と魅力ある地域づくりとして地域活性化の起爆剤に加え国交省所管事業である「川まちづくり事業」の推進に進展しています。	
6 参加内訳	総人数	476名
	(1) 主催者参加	209名
	(2) 日本人参加( (1) を除く)	259名
	(3) 外国人参加( (1) を除く)	8名
7 今後の方針	里山・里川の有機的な活用を図る水辺の交流とオアシスの郷づくりの進展を図り、流域及び町内外の人々のプラットフォームと体験交流場の役割を果たし、ダムや水資源の重要性と保全意識の醸成と向上を図ります。更に、第2次オアシスの郷づくりの基本構想策定の取り組みを推進し、オンリーワンの里川・里山の創造を加速させ、流域住民、世代間交流や子育て支援、体験・交流等のイベントの充実と強化を図ると同時に情操教育の深化を図ります。これらの活動に加え、国交省所管事業等「川まちづくり事業」の推進等個性と魅力ある交流拠点としての認知度を高め、交流人口や関係人口の増大と中島地域ブランド化の構築を目指します。	

5月21日(ダム管理道除草作業状況)



7月23日(外来種オオカナダモ除去作業状況)



7月30日(川リンピック開催事業状況)



12月7日(森・川学習会 状況)



1月6日(オアシスの郷植樹集合写真)



1月28日(巖木川葦等焼却状況)

